

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 先端科学技術体験センター施設管理運営委託料

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部文化伝承課教育文化係 電話番号：058-272-1111(内3144)

E-mail : c11148@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 180,160 千円 (前年度予算額： 160,000 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	160,000	0	0	40	0	0	44	0	159,916
要求額	180,160	0	0	39	0	0	48	0	180,073
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・先端科学技術をテーマとした多彩な科学技術体験を通じて、21世紀を担う青少年の科学への興味を喚起する。
- ・知性豊かな創造性に満ちた人材の育成を図る。
- ・広く県民に生涯学習の場を提供する。

上記の内容を実現するため、平成11年に先端科学技術体験センターが開設し、平成11年度～平成17年度は、公益財団法人岐阜県研究開発財団が県の委託を受け運営を行った。平成18年度からは指定管理者制度を導入し、特定者指名により（指定期間5年間）、引き続き同財団が運営を行った。平成22年度の指定管理任期の満了に伴い、平成23年度からは公募により選定された民間事業者による運営（指定期間5年間）が行われ、現在は当該事業者が3期目（令和3年度から令和7年度）の事業を運営している。今回は次期指定管理期間の1年目の委託料を要求するものである。

(2) 事業内容

先端科学技術体験センターの施設管理運営委託料

(3) 県負担・補助率の考え方

公募により選定された民間事業者を指定管理者として指定しているため、県が負担することは妥当である。

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	180,160	先端科学技術体験センターの施設管理運営委託料
合計	180,160	

決定額の考え方

事 業 評 価 調 書 (県単独補助金除く)

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

○先端科学技術をテーマとした多彩な科学技術体験を通じて、21世紀を担う青少年の科学への興味を喚起する。

○知性豊かな創造性に満ちた人材の育成を図る。

○広く県民に生涯学習の場を提供する。

上記内容を実現するため、各種ワークショップ・イベント等を実施するとともに、外部連携強化による新たなネットワークの構築を行っていく。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R2)	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①年間来館者数 (人)	28,885	78,205	84,608	90,000	95,000	89.1%
②年間学校利用 数 (校)	55	83	56	70	70	80.0%

○指標を設定することができない場合の理由

(これまでの取組内容と成果)

令 和 4 年 度	・昨年度と同様、仕様書に定められた業務だけでなく、出張ワークショップやオンライン事業等、コロナ禍におけるニーズに対応した業務を実施した。加えて、SNSでの情報発信にも重点を置いたことで、来館者数の回復に繋がっている。
	指標① 目標：50,000人 実績：69,472人 達成率：138.9 %
令 和 5 年 度	・コロナが第5類に移行したが、仕様書に定められた業務のみならず、コロナ禍で一定の成果を挙げた出張ワークショップやオンライン事業等の業務を継続して実施した。また、新たにファンクラブを創設し、利用者との新たな関係性の構築及びリピーターの確保を図ったことで、コロナ禍前の来館者数に戻りつつある。
	指標① 目標：65,000人 実績：78,205人 達成率：120.3 %
令 和 6 年 度	・昨年度と同様、仕様書に定められた業務のみならず、コロナ禍で一定の成果を挙げた出張ワークショップやオンライン事業等の業務を継続して実施した。また、テレビ番組とのタイアップや、ワークショップ及び講座事業のウェブ申込の開始などを行った結果、コロナ禍前の来館者数に戻りつつある。
	指標① 目標：70,000人 実績：84,608人 達成率：120.9 %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 2	全国的にも珍しい体験型に特化した科学館であり、学校で実施が難しい体験授業の現場としての機能も有している。また、SSH(スーパーサイエンススクール)等の支援機関としてのノウハウや経験も有した施設であり、地域になくてはならない施設である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	出張ワークショップやオンライン事業等を継続することで、アンケートによる利用者の満足度は高い水準を維持できており、入館者数はコロナ禍前の水準に戻りつつある。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	指定管理評価員会議において、同評価員から「協定書等に定める水準を上回る管理運営がされている」と評価されており、県としても「優れた管理運営がされており、かつ十分な実績・成果を上げている」と評価している。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

老朽化に伴う修繕や機器等更新、先端科学技術に対応できるメニュー開発

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

老朽化に伴う修繕や機器等更新について、計画的に実施する。また、魅力あるメニューの開発やプログラムの構成に努めるとともに、効率的なPR活動を行うことにより、誘客・利用促進を図る。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	